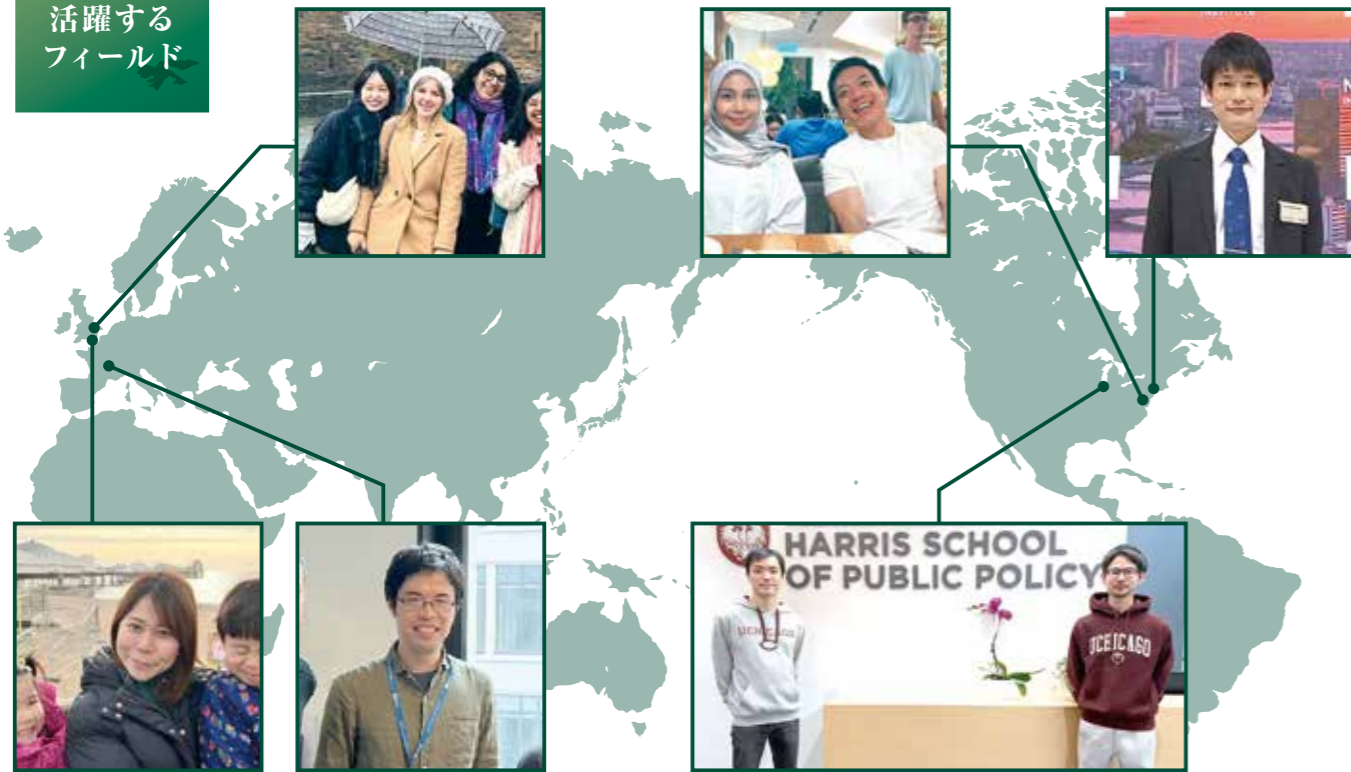


職員が活躍するフィールド



海外で活躍する職員(海外出向)



国際租税政策の現場

平成23年入庁

OECD事務局
シニアアドバイザー

富田 憲司郎

国税庁総務課、留学(ミシガン大学大学院)、国税庁国際業務課補佐、外務省国際法局経済条約課補佐、デジタル庁参事官補佐などを経て、令和5年より現職。

国境を越えた利害調整

経済のデジタル化に伴い現行の国際課税制度が十分に機能しなくなっていることを受けて、その解決策が国際的に議論されていることは、報道等でご存知の方もいらっしゃると思います。

私が所属するOECD事務局の移転価格ユニットはその一部を担当し

ており、新たな枠組みの策定に向けて各国と議論を続けています。

現在の業務を一言で表すならば、「利害調整」。バックグラウンドの異なる国同士で税の在り方を議論すると、まるで当然のように意見が対立します。そこで、OECD事務局は、様々な意見を斟酌した上で、解決策を提案する役割を担うことになります(時には日本の意見に沿わない提案をすることも。すまない)。各国の立場・主張を理解しつつ、新たな国際課税の枠組みに相応しい提案をすることは、責任重大な役割だと感じています。

OECD事務局にて思うこと

今回の出向を通じて、柔軟かつ高い視点を持つことの重要性を再認識しています。各国の主張の中には理解しがたいものがあるのは事実ですが、よく話を聞くとその国なりの合理性を持って主張していることに気付かされます。柔軟な視点を持って各国の意見を聞きつつ、一国の立場を離れて高い視点を持って議論をリードする、というスタイルで仕事をできるのは、国際機関勤務の醍醐味なのかもしれません。

国税庁総合職採用者は、税という専門性を持ちつつ多様なフィールドで活躍することができる、と表現されることがありますが、十数年の経験を踏まえると、まさにその通りだと言えます。国際分野に限らず、国税庁には魅力的な業務・機会がたくさんあります。このパンフレットを手にした皆さんと働ける日を楽しみにしています。



経済・金融の中心地・ニューヨークで日本をPR

在ニューヨーク
日本国総領事館
兼 国際連合日本政府代表部

高原 俊之

平成23年入庁

国税庁人事課、留学(LSE)、京都市城陽市まちづくり活性化部産業政策監、財務省主税局参事官補佐などを経て、令和4年から現職。

総領事館での仕事

総領事館は、大使館と並んで外国と外交を行う拠点として世界67の主要都市に置かれている外務省の組織です。私は現在、ニューヨークの総領事館において、主に①日本の経済・経済政策のPRや、②日本のお酒の普及・振興に関する仕事に携わっています。

日本への投資促進に向けて

一つ目の仕事については、現地の投資家に対する日本政府の取り組みをPRするフォーラムの開催や、個別のミーティングなどを通じて、日本への投資を促進することを目的としています。特に、岸田総理大臣が現地投資家へ向けにニューヨークで行った経済スピーチイベントを企画・運営したことが特に印象的な仕事でした。担当として総理大臣を迎え入れるのですから、スピーチの内容の検討は当然のこと、円滑なイベントの進行に向けた関係者との事前協議・調整や当日対応は困難かつ多忙を極めました。成功裏に終わられた時の達成感はこれまでにないほどのものでした。

アメリカの人々へのお酒の普及を目指して

日本でお酒の規制・監督や振興を担当する国税庁から出向している私には、日本のお酒を現地の人々にPRし、広めることもミッションとなっており、現地の事業者と協力・工夫してPRイベントを企画・開催しています。行政として、お酒を消費者に売ったり、輸入・流通させることが出来ない制約がある中、現地の人々に一層浸透させるためには何が出来るのか、頭を悩ませることも多いですが、官民一体となった地道な取り組みによって、少しずつニューヨークで日本のお酒が広がっていることを感じています。

国税庁には、税に関する仕事だけではなく、多様な仕事(そして海外の地でも!)待ち受けており、自分のポテンシャルを高めることが出来るフィールドがあります。このように働き甲斐のある国税庁で是非一緒に働きませんか?



To create a world free of poverty on a livable planet

世界銀行
シニアガバナンス
スペシャリスト

荒木 勇樹

平成21年入庁

熟田税務署法人課税部門 国税調査官、留学(ジョンズ・ホプキンス大学)、財務省国際局地域協力課補佐、国税庁酒税課輸出促進室補佐などを経て、令和4年から現職。

To create a world free of poverty on a livable planet

上記は、私が2022年7月より出向している世界銀行のVisionです。このVisionを実現するため、私が所属するユニットは、途上国の国内資金動員(Domestic Resource Mobilization)強化に必要な支援を

行っています。「国内資金動員」というあまり一般に馴染みのない言葉ですが、ざっくりと言えば、開発途上国が様々な課題を主体的に解決するために必要な資金を自らの税収で確保することを意味しています。経済成長や貧困削減のためには教育、インフラ、公衆衛生等への投資が不可欠ですが、多くの途上国では財源が足りていません。そのため、世界銀行は途上国に対して税収を改善するためのサポートを行っています。

世銀スタッフとしての日々

世界銀行という名前が示すとおり、世界中の地域が支援の対象であり、世銀スタッフは1年中、どこからの国を飛び回っています(あまりに出張が多いため、未だに顔を見たことがない同僚もいます)。私も例に漏れず、数えてみたところ、直近の1年間で10か国ほど訪問していたようです。

また、世界中にクライアントがいることから、アフリカの国際会議に参加→帰国の乗継待ちの間にアジアの税務当局にプレゼン→ワシントンDCに戻った直後に太平洋の島嶼国と打ち合わせ、のような日本ではなかなか経験できない日々を過ごしています。

世銀で働く醍醐味

月並みな表現ですが、世界銀行で働く醍醐味はなんといっても達成感です。言葉も文化も違うため、うまくいかないことも多々ありますが、これまでの国税庁での経験を総動員して議論をし、お互いに分かりあえたときの喜びは何物にも代え難いです。

01

はじめに

02

キャリアパス

03

職員が活躍するフィールド

04

特集